

1. 日 時 平成 30 年 3 月 13 日 (火) 19 時～
2. 場 所 高知県庁 2 階 第二応接室
3. 出席者 部会員 9 名、事務局 4 名

【部会長・副部会長の選任について】

部会長：前田 長正 委員 副部会長：濱脇 弘暉 委員

【議事概要】

(1) 子宮頸がん検診の実績等について

○平成28年度 市町村子宮頸がん検診の実績について (資料1)

- ・市町村が実施した子宮頸がん検診の、受診者数、精検者数、精検結果等について報告。
- ・精度管理指標である「要精検率」「陽性反応的中度」「がん発見率」は国の許容値を満たしている事を報告。
- ・「精検受診率」は62.6%で、国の許容値の70%以上を例年下回っていることを報告。今後市町村に聞き取り調査を行い、受診率の低い理由を見つけ、30年度から対策を講じていきたいと考えている。

○平成28年度 県全体のがん検診の実施状況調査結果について (資料2)

- ・資料1の実績数に加え、職場で実施される検診等(以下、職域検診という)を含めた県全体の受診率について報告。子宮頸がんは23機関から報告をいただく。
- ・2ページの①～③の表
職域検診の報告依頼項目は、受診者数・要精検者数・精検受診者数・精検結果の4項目であるが、情報提供可能な範囲での報告でかまわないこととしていることから、4項目全ての報告をいただいた機関と、一部の情報のみ報告をいただいた機関の情報をそのまま合算すると、精度管理状況が比較できないことから、4項目全て報告いただいた9機関分の実績と市町村検診実績を合算した表①と、2項目(受診者数・要精検者数)の報告をいただいた12機関分に①の表を合算した②の表に分けて分析したことを報告。③の表は受診者のみ報告をいただいた機関を②に合算したものになるが、今回は受診者のみ報告の機関がなかったため②と同数になっている。
- ・2ページ下段の表(40歳以上の集計の年次変化を掲載)
検診受診者数は、27年度より1,304名増の45,760名。がん発見数は、27年度より25名増の47名。

○ベセスダシステムによる検診実施状況について (資料3)

- ・ベセスダシステムが開始された平成22年度からの推移と、平成21年度のクラス分類の結果を掲載
- ・下段に、平成26～平成28年度の細胞診判定の推移を掲載

○平成29年度 各種検診の検診費用徴収額調べについて (資料4)

- ・市町村検診時に住民から徴収する自己負担額について報告。
表ページは自己負担額が少ない順に並べた表であること、裏ページは市町村順に並べた表であること説明。
- ・子宮頸がんは、表の右端に表記。
グレーで着色している箇所が、28年度と変更のあった箇所であること説明。

(2) 受診率向上対策について

○クーポン事業での子宮頸がん検診の実施状況について（資料5）

- ・ 1 ページ目で、平成21年度～28年度までの受診状況について報告。
- ・ 2 ページ目で、平成21年度からの事業の変遷を説明。30年度も29年度から同様に、20歳の方のみが無料クーポン事業の対象となること報告

(3) 子宮頸がん検診精度管理調査結果について（資料6）

- ・ 市町村及び医療機関に調査を実施した精度管理状況について結果を報告。

(4) その他

○地域がん登録の登録状況について（資料7）

- ・ 地域がん登録の2013年の全国状況を追加した資料を配布。

○子宮頸がん検診実施指針様式改正について

- ・ 問診の際に分娩歴を確認する項目を追加。また、様式3号について、性交経験の有無に経膈分娩の有無を追加。
- ・ 指針第7 検診 3 医療機関検診の実施方法の（4）検体の送付に、検体が不適正であった場合の再検査のお知らせ並びに細胞診再検査依頼書について追記。